

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車工学		自動車基礎工学		15 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		経験年数	
非常勤	青木 繁夫	近畿スバル自動車		23 年	
		自動車整備科職業訓練指導員		年	
				年	
授業方法 講義		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
学 習 目 標					
自動車には、いろいろな用途のものがあ、その構造も多種多様である。道路運送車両法・道路交通法及び日本工業規格の見地から自動車の定義を学び、構造と原理・法則を修得する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期中間	8	第1章	自動車の概要 自動車の定義と歴史 自動車の分類		
		第2章	自動車の構造 自動車の構成 各構成部位の概要		
前期期末	7	第6章	基礎的な原理・法則 力とトルク及びモーメント 仕事とエネルギー及び応力 電気と磁気		
		第7章	自動車の諸元 自動車の寸法、質量、性能		
後期中間	—				
後期期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度		思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性と興味を持たせる内容とする。		教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車工学		ガソリンエンジン 1		66 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴（前職又は現職）		実務経験年数	
非常勤	河崎 祐次	日産大阪販売株式会社		5 年	
		大産大 短大 自動車工学科		9 年	
		大産大 交通機械工学科		在籍 年	
授業方法 講義		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
学 習 目 標					
ガソリンエンジンが本来の出力が発揮できるための構成・構造及び作動を理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	18	ガソリンエンジン 総論 ・ 各種分類・4サイクルエンジンの概要 エンジン本体 ・ シリンダ・シリンダヘッド・ピストン・クランク 潤滑装置 ・ オイルポンプ・フィルタ・リリーフバルブ			
前期 期末	20	冷却装置 ・ ラジエーター・サーモスタット・電動ファン 燃料装置 ・ ガソリンタンク・フィルター・インジェクター 吸排気装置 ・ エアクリーナー・マフラー・触媒 電気装置 ・ 点火装置			
後期 中間	22	電子制御装置 ・ 概要 ・ 燃料系統 ・ 吸気系統 ・ 車載式故障診断機能 ・ 燃料系統			
後期 期末	6	バルブタイミング エンジンの点検・整備			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性和興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	○ 定期試験（中間・期末）によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)
 算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車工学		ジーゼルエンジン 1		63 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
常 勤	西村 康	大阪ダイハツ販売株式会社		36 年	
		自動車検査員		年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識			
講義		について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
学 習 目 標					
ジーゼルエンジンが本来の出力が発揮できるための構成・構造及び作動を理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	18	ジーゼルエンジン 総論 エンジン本体 潤滑装置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種分類・4サイクルエンジンの概要 ・ シリンダ・シリンダヘッド・ピストン・クランク ・ オイルポンプ・フィルタ・リリーフバルブ 		
前期 期末	15	冷却装置 燃料装置	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラジエター・サーモスタット・電動ファン ・ 燃料タンク・フィルター・インジェクター ・ 機械式燃料噴射装置 		
後期 中間	22	吸排気装置	<ul style="list-style-type: none"> ・ コモンレール式高圧燃料噴射装置 ・ エアクリーナー・マフラー・触媒 		
後期 期末	8	予熱装置 エンジンの点検・整備			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性と興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

工業専門課程 自動車整備科 (学科、1年生)

(令和7年度実施)

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車工学		シャシ 1		66 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		経験年数	
非常勤	濱田 洋和	大阪ダイハツ販売株式会社		35 年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識			
講義		について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
学 習 目 標					
自動車がどのように走行性を発揮しているか構成・構造及び作動を理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	18	自動車シャシ 総論 動力伝達装置			
前期 期末	20	アクスル&サスペンション ステアリング装置			
後期 中間	22	ホイール及びタイヤ ホイールアライメント ブレーキ装置			
後期 期末	6	フレーム及びボディ 電気装置 シャシの点検・調整			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性と興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車工学		電装1 (電気装置1)		16 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴 (前職又は現職)		経験年数	
非常勤	東 利和	大阪マツダ販売株式会社		14 年	
				年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識			
講義		について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
学 習 目 標					
ガソリンエンジンにおけるエンジン電装 (始動・充電・点火) の基礎を修得する					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間	12	始動装置の基礎 充電装置の基礎			
後期 期末	4	点火装置の基礎			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性和興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験 (中間・期末) によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車工学		2輪自動車 1		16 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		経験年数	
非常勤	中畑 正幸	大阪トヨペット株式会社		20 年	
				年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識			
講義		について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
学 習 目 標					
2輪自動車の構造・作動及び2輪特有の作動を理解する					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間	12	2輪自動車 総論 エンジン本体 シャシ		ホイールアライメント役割	
後期 期末	4	電気装置 点検・整備			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性と興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車工学		自動車力学1		29	時間
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		経験年数	
常 勤	島本 達也	大阪マツダ販売株式会社		35 年	
				年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識			
講義		について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
学 習 目 標					
自動車の製作、自動車の保守管理における基準に満足しているか、確認判定するために必要な数値を計算するための知識を修得する					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	8	自動車整備士の計算 計算の基礎 ・ 分数、文字式、方程式、割合と比、単位の換算 トルクと偶力 ばね定数			
前期 期末	7	圧力 速度・加速度 走行性性能	力のモーメント 荷重割合		
後期 中間	10	ギヤ機構とベルト伝達機構 プラネタリーギヤユニット エンジン圧縮比	エンジン回転数		
後期 期末	4	電気回路計算			

評価の観点・内容・方法			
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用	知識・理解度
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性和興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。	授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 		

成績評価方法
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車工学		電気工学		18 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		経験年数	
非常勤	東 利和	大阪マツダ販売株式会社		14 年	
				年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識			
講義		について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
学 習 目 標					
自動車に用いられている電気装置を理解するために電気の基礎知識を修得する					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期中間	9	電気の基礎 静電気・電流・電圧・電気抵抗・電気回路・回路計算 電力 コンデンサ・電線の許容電流と保護回路			
前期期末	9	磁気的基础 電流と磁界・磁力線の性質・電磁誘導作用 半導体の基礎 半導体の種類と特質・整流回路・電流増幅回路・論理回路 サーマスタ・圧電素子・磁気抵抗素子			
後期中間	—				
後期期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用 of 技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性和興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車工学		材料 (自動車材料)		16 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴 (前職又は現職)		経験年数	
非常勤	青木 繁夫	近畿スバル自動車		23 年	
		自動車整備科職業訓練指導員		年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識			
講義		について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
学 習 目 標					
地球環境の改善のために、中長期で材料の材質がより高度なものに変化する現状であり、その材料の基本・基礎を修得する					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間	12	自動車材料 総論 金属材料の性質 鉄鋼材料 非鉄金属材料			
後期 期末	4	焼結合金 非金属材料 複合材料			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性と興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験 (中間・期末) によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車工学		燃料・潤滑剤		18 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		経験年数	
非常勤	青木 繁夫	近畿スバル自動車		23 年	
		自動車整備科職業訓練指導員		年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識			
講義		について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
学 習 目 標					
自動車に用いられている燃料・油脂を理解するために、ガソリン・軽油・LPG、潤滑及び潤滑剤の基礎知識を修得する					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期中間	10	燃料 石油精製法 燃料の性状と規格 ・ ガソリン ・ 軽油 ・ LPガス			
前期期末	8	潤滑及び潤滑剤 摩擦力と潤滑作用 潤滑油の製法 エンジンオイル ギヤオイル グリース その他の潤滑剤 作動油・その他			
後期中間	—				
後期期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性和興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)
 算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車工学		製図(機械製図)		14 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		経験年数	
非常勤	青木 繁夫	近畿スバル自動車		23 年	
		自動車整備科職業訓練指導員		年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識			
講義		について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
学 習 目 標					
製作物を作成する場合その全般を十分に検討されるが、その情報を的確に共有しなければ ならない図形による情報共有を修得する					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間	10	製図の意義と重要性 図面の大きさ及び様式 線・文字・尺度・図形の表し方 寸法の記入方法			
後期 期末	4	容器画法 CAD製図について			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性和興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備に関する法規		法規 (道路運送車両法)		31 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴 (前職又は現職)		経験年数	
非常勤	青木 繁夫	近畿スバル自動車		23 年	
		自動車整備科職業訓練指導員		年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識			
講義		について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
学 習 目 標					
道路運送車両法を基に自動車に関する法令知識を修得する					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	9	総則 法律の目的 自動車の種別 登録制度 保安基準の概要 自動車の構造			
前期 期末	10	自動車の装置 乗車定員及び最大積載量 点検整備制度 使用者の点検及び整備の義務 日常・定期点検整備 点検整備記録簿			
後期 中間	10	検査制度 国の行う検査 自動車検査証 ・有効期間 ・備付け ・返納			
後期 期末	2	整備事業 自動車分解整備事業の種類 認証 自動車分解整備事業者の義務 評価の観点・内容・方法			
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性和興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験 (中間・期末) によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)
 算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

工業専門課程 自動車整備科 (学科、2年生)

(令和7年度実施)

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車工学		自動車力学2		28	時間
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		経験年数	
常 勤	島本 達也	大阪マツダ販売株式会社		35	年
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
講義					
学 習 目 標					
自動車の製作、自動車の保守管理における基準に満足しているか、確認判定するために必要な数値を計算するための知識及び車両性能を数値化する計算を修得する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	8	自動車整備士の計算 計算をするために必要な公式 SI化で変更になる単位と用語 荷重割合 圧力			
前期 期末	10	ギヤ比 性能曲線 走行性能 トルク			
後期 中間	10	排気量 バルブ関係 電気関係			
後期 期末		2級試験対策 出題問題を基に復習会的に学科スキルアップ			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性和興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備		2輪自動車 2		18 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	中畑 正幸	大阪トヨペット株式会社		20 年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。		年	
講義				年	

学 習 目 標

2輪自動車の構造・作動及び2輪特有の作動を理解する。

学習期間	時間数	学習単元と内容	
後期 中間	—		
後期 期末	—		
前期 中間	8	2輪自動車 総論 エンジン本体 シャシ	遠心クラッチと無段変速 コーナリングフォース スリップアングル
前期 期末	10	電気装置 保安基準適合性の確保 故障原因探究	

評価の観点・内容・方法

観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能	知識・理解度
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性和興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。	授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 		

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備		電装2(電気装置2)		39 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		経験年数	
非常勤	東 利和	大阪ダイハツ販売株式会社		15 年	
				年	
非常勤	中畑 正幸	大阪トヨペット株式会社		20 年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
講義					
学 習 目 標					
自動車の電気装置を学ぶとともに、ボディ電装を修得する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	8	バッテリー 起電力・容量・比重・電解液温度の関係 始動装置 充電装置 予熱装置			
前期 期末	10	点火装置 電気装置 <ul style="list-style-type: none"> ・ 計器 ・ 警報装置 			
後期 中間	21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部診断機 ・ エアコンディショナー ・ 多重通信 ・ 安全装置・ナビゲーション 			
後期 期末		2級試験対策 出題問題を基に復習会的に学科スキルアップ			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度		思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性和興味を持たせる内容とする。		教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車検査		検査2(自動車保安基準)		28	時間
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)			経験年数
非常勤	青木 繁夫	近畿スバル自動車			23 年
		自動車整備科職業訓練指導員			年
					年
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
講義					
学 習 目 標					
道路運送車両法における自動車に関する法令知識を修得する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	8	自動車の寸法及び最低地上高 重量限度 安定性 最少回転半径 タイヤ摩耗限度 操縦装置及びかじ取り装置	燃料注入口等 制動装置 車体のリヤオーバーハングの限度 巻き込み防止装置		
前期 期末	10	後部突入防止装置 前部潜り込み防止装置 運転席、車室の座席 灯火装置 関係 速度計 排出ガス規制	排気騒音 校写鏡 非常信号用具の灯火確認距離 窓ガラス		
後期 中間	10	警音器 サイレン 消火器 座席ベルト 内圧容器及びその付属装置 乗車装置	緊急制動表示灯 後面衝突警告表示灯 低速走行時側方照射灯 衝突被害軽減制動装置 車線逸脱警報装置		
後期 期末		2級試験対策 出題問題を基に復習会的に学科スキルアップ			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性と興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法	
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>	

工業専門課程 自動車整備科 (学科、2年生)

(令和7年度実施)

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備		シャシ 2		55 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		経験年数	
非常勤	濱田 洋和	大阪ダイハツ販売株式会社		35 年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践の内容を指導し授業を行う。		年	
講義				年	
学 習 目 標					
自動車がどのように走行性を発揮しているか構成・構造及び作動を理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	17	自動車シャシ 総論	・ 自動車の性能		
		動力伝達装置	・ 差動制限デフ・インタアクスル		
前期 期末	17	アクスル&サスペンション	・ エアサス・電子制御		
		ステアリング装置	・ 旋回性能		
		ホイール及びタイヤ ホイールアライメント			
後期 中間	21	ブレーキ装置	・ 電子制御・補助ブレーキ		
		フレーム及びボディ			
		電気装置			
		シャシの点検・調整			
後期 期末		2級試験対策 出題問題を基に復習会的に学科スキルアップ			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性と興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)

算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備		ジーゼルエンジン 2		58 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	田中 良則	大阪トヨペット株式会社		32 年	
		自動車検査員		年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
講義					
学 習 目 標					
ジーゼルエンジンが本来の出力が発揮できるための構成・構造及び作動を理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	16	ジーゼルエンジン 総論 ・ 燃焼方式・熱効率・ジーゼルエンジンの燃焼 エンジン本体 ・ シリンダ・シリンダヘッド・ピストン・クランク 潤滑装置 ・ オイルクーラー			
前期 期末	20	冷却装置 ・ ファンクラッチ・電動ファン 燃料装置 ・ コモンレール式高圧燃料噴射装置 ・ ユニットインジェクター式高圧燃料噴射装置			
後期 中間	22	吸排気装置 ・ ターボチャージャー・インタークーラー 電気装置 ・ 始動装置・充電装置・予熱装置 エンジンの点検・整備 ジーゼルの新機構			
後期 期末		2級試験対策 出題問題を基に復習会的に学科スキルアップ			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性と興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法	
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>	

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備		ガソリンエンジン 2		55 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	田中 良則	大阪トヨペット株式会社		32 年	
		自動車検査員		年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践の内容を指導し授業を行う。			
講義					
学 習 目 標					
ガソリンエンジンが本来の出力が発揮できるための構成・構造及び作動を理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	17	ガソリンエンジン 総論 エンジン本体 潤滑装置 ・ 熱効率・出力試験・ガソリンの燃焼 ・ シリンダ・シリンダヘッド・ピストン・クランク ・ オイルポンプ・フィルタ・リリーフバルブ			
前期 期末	17	冷却装置 燃料装置 吸排気装置 電気装置 ・ 電動ウォーターポンプ・電動ファン制御 ・ 燃料噴射装置・電子制御式LPG ・ 過給機・インタクーラー・EGR・可変吸気 ・ 発振回路・論理回路			
後期 中間	21	電子制御装置 ・ OBD規制・エンジンセンサーとECU制御 エンジンの点検・整備 スキャンツール・故障探究の基本			
後期 期末		2級試験対策 出題問題を基に復習会的に学科スキルアップ			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性と興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める				

成績評価方法
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>

学科名		授業科目名	
自動車整備		故障探究	
		25	時間
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)	
非常勤	栗山 隆仁	オートファイナル(車両製作会社)	
		大阪産業大学工学部交通機械科助手、講師	
実務経験年数		3	年
		26	年
			年
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。	
講義			
学 習 目 標			
自動車の故障要因・現象を学び、故障探究の進め方・手法を理解する			
学習期間	時間数	学習単元と内容	
前期中間	8	故障と探究 故障の発生状況 故障原因探究の手法 ガソリンエンジンの基本的な考え方 ジーゼルエンジンの基本的な考え方	
前期期末	7	電装品故障の基本的な考え方 シャシの故障の基本的な考え方 異音・騒音・振動の基本的な考え方	
後期中間	10	ハイブリッド車の故障の基本的な考え方 スキャンツールの活用	
後期期末		2級試験対策 出題問題を基に復習会的に学科スキルアップ	
評価の観点・内容・方法			
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能	知識・理解度
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性と興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。	授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 		

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

工業専門課程 自動車整備科 (学科、2年生)

(令和7年度実施)

学科名		授業科目名	
自動車整備に関する法規		環境	
		12	時間
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)	
常 勤	青木 亨	大阪ダイハツ販売株式会社	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。	
講義			
学 習 目 標			
自動車は国民生活において欠くことができない極めて重要な役割を果たしている反面、騒音・公害・事故など社会問題を改善することが重要になっている現状を知る。			
学習期間	時間数	学習単元と内容	
前期 中間	—		
前期 期末	—		
後期 中間	12	地球環境問題と現状 環境問題と改善 循環社会と3Rについて 自動車の省エネ技術 ハイブリッド自動車	
後期 期末		関連法規	
評価の観点・内容・方法			
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能	知識・理解度
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性和興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。	授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 		

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
機器の構造・取扱い		整備機器 2		19 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
常 勤	中畑 正幸	大阪トヨペット株式会社		20 年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。		年	
講義				年	
学 習 目 標					
自動車検査に用いられている工具・機器の取扱、測定機器の測定方法を修得する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期中間	9	基本作業 サーキットテスター バッテリーチャージャー オシロスコープ		ホイルチェンジャー ターニンググラジアスゲージ	
前期期末	10	測定作業 サイドスリップテスター ブレーキテスター ヘッドライトテスター 排気ガス測定器		騒音計	
後期中間					
後期期末					
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解度	
内容	教科書の基本知識を修得するとともに実務経験から得る現状を取り入れることで学習の重要性和興味を持たせる内容とする。	教科書への書き込み、授業内容の書き取り内容から、小テストや定期試験に出題をおこなうことを周知させ、資料の内容を自身によって充実させる。		授業内小テスト・配布資料で理解度進捗を把握しながら定期試験をもって修得確認をおこなう。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末)によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストを実施し、理解度進捗確認を行う ○ 学習活動状況を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法	
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間試験+期末試験) ÷ 2 × 0.8) + (授業活動評価 × 0.2)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>	

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		ガソリンエンジン分解 ① ②		66	時間
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
常 勤	北野 昌央	大阪マツダ販売株式会社		20	年
		自動車検査員			年
					年
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
メーカーの異なるエンジンをグループ単位で分解・組立をおこなうが、1台目は実習要領書と指導員の指示で作業を完了させ、2台目はグループメンバーが実習要領書を基に分解・組立を完成させる。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間 エンジン分解①	31	内燃機関について エンジン本体の構成 潤滑・冷却装置 エンジン本体の分解・組立・調整 *ダイハツ 3気筒エンジンを使用し、説明・指導を受けて、			
前期 期末 エンジン分解②	35	エンジン本体の分解・組立・調整 *スズキ 3気筒エンジンを使用し、説明・指導を受けずに グループ単位で実習要領書を基に作業をおこなう (ポイント・質問対応はおこなう)			
後期 中間	—				
後期 期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)
 算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		エンジン基礎		35 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)			実務経験年数
非常勤	西山 栄一	大阪ダイハツ販売株式会社			31 年
		自動車検査員			年
					年
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					

学習目標

エンジンの回転数、点火時期、排気ガス濃度測定など測定機器や外部診断機を使用し計測をおこない、エンジン制御を理解する。

学習期間	時間数	学習単元と内容
前期 中間 エンジン基礎	35	エンジン電子制御装置 燃料噴射・点火制御装置 エンジン制御各センサーの仕組み エンジン調整 作業上の注意事項と計測機器の使い方 バッテリーの点検 排気ガス濃度の測定 プラグの点検・点火タイミングの点検 エンジン圧縮圧力の測定 エンジンアイドリング点検 アイドル回転数
前期 期末	—	
後期 中間	—	
後期 期末	—	

評価の観点・内容・方法

観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能	知識・理解
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。	定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 		

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		エンジン脱着		24 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	西山 栄一	大阪ダイハツ販売株式会社		31 年	
		自動車検査員		年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
エンジン始動・走行確認したのち、リフトアップ、車両からエンジン・ミッションを取り外し、再度車両に組付けをおこない始動させる。整備作業・板金作業の基本作業の実践をおこなう。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間	—				
後期 期末	24	車両状況の確認 (始動)			
エンジン脱着		エンジン取外し作業 エンジン補機部品の取付け状態確認 エンジン取付け作業 車両状況の確認 (始動)			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		エンジン始動		35 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	西山 栄一	大阪ダイハツ販売株式会社		39 年	
		自動車検査員		年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
エンジンの分解・組立をおこない、エンジンを始動させる。始動させるために組立手順とポイントを知りトルク管理と調整が重要なことを理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間 エンジン始動	35	エンジンの各部品名称及び機能説明 エンジン補機部品の脱着 エンジン本体の分解・組立 調整・トルク管理部分の説明 エンジン始動・困難の場合は再分解			
後期 期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		ジーゼルエンジン分解		31 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
常 勤	大島 智	関西マツダ販売株式会社		41 年	
		ガス・アーク溶接資格		年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
ジーゼルエンジンの分解組立をおこない、名称・構造及び作動を理解する *トヨタジーゼルエンジン 2000ccを使用					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間 DE 分解	31	内燃機関について エンジン本体の構成 潤滑・冷却装置 エンジン本体の分解・組立・調整 *(DEはジーゼルエンジンの略称とする)			
後期 期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法	
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>	

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		自動車構造 ① ② ③		86	時間
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	柿原 悦郎	大阪スバル株式会社		20	年
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
自動車に求められる基本性能である、「走る」「曲がる」「止まる」の運動性能を運転者の意志に基づいて作動できるように装備されている、各種の機構・装置について構造・作動を修得する。					
学習期間	時間数	学習单元と内容			
前期 期末 自動車構造 ①	31	第1章	自動車の性能における総論 自動車の性能 自動車の安全装置		
		第2章	動力伝達装置の分解 伝達装置の概要とクラッチ プロペラシャフト・ドライブシャフト デファレンシャルギヤ		
		第3章	アクスルとサスペンション サスペンションの構造と作動		
後期 中間 自動車構造 ①	31	第5章	タイヤとホイールの脱着・組付け タイヤの構造と作動(組付け・バランス)		
		第6章	ホイールアライメントの調整 前後輪の相互関係(4輪ホイールアライメント)		
		第4章	ステアリング装置(ギヤボックスの分解・点検・組立) 旋回性能装置の構造と作動 ステアリング・アシスト装置		
後期 期末 自動車構造 ③	24	第7章	ブレーキ装置(分解・点検・調整、エア抜き) ブレーキの構造と作動 ブレーキの安全装置 ブレーキ倍力装置		
後期期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)

算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		AT(FF油圧)		24 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
常 勤	青木 亨	大阪ダイハツ株式会社		9 年	
		自動車検査員		年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践の内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
故障診断機器の取り扱いと診断機による故障診断(故障個所の特定)実車による故障探究。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間	—				
後期 期末	24	トルクコンバーターの構造と作動 AT本体分解・組立 プラネタリーギヤの構造と計算(ギヤ比) クラッチ締結表と作動 変速特性と作動クラッチ及び作動ブレーキ コントロールバルブの分解 油圧回路 オイルポンプ			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		MT分解		35 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
常 勤	青木 亨	大阪ダイハツ株式会社		9 年	
		自動車検査員		年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
変速機(マニュアルミッション)の分解・組立を行い構造・作動を理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間 MT 分解	35	クラッチについて クラッチの種類と名称 クラッチの作動と役割 マニュアルトランスミッションについて ミッションの役割 変速の仕組みとシンクロメッシュ 4速 FR ミッション分解組立 5速 FF ミッション分解組立 二重かみ合い防止・ギヤ抜け防止			
後期 期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法	
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>	

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		電気基礎		28	時間
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
常 勤	林 泰夫	大阪マツダ販売株式会社		21	年
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
電気回路の作製・サーキットテスター作成を通じて、電気を感じると同時に直列・並列回路の特徴の検証をおこなう。また、簡易モーターの作製をおこない磁気作用を理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間 電気基礎	28	電気回路の作製・測定 直・並列回路の電圧・電流・合成抵抗 (オームの法則) ダイオードの点灯回路 (整流作用) コイルとソレノイドの作製 磁石とコイル (磁気作用) サーキットテスターの作製 テスターの校正と使い方			
前期 期末	—				
後期 中間	—				
後期 期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能	知識・理解		
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。	定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。		
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		エンジン電装G		32 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
常 勤	林 泰夫	大阪マツダ販売株式会社		21 年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践の内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
エンジンの点火装置、始動装置、充電装置の分解・組立を行い構造・作動を理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	32	始動装置 モーターの原理 セルモーターの必要性 セルモーターの分解・組立 マグネットスイッチの作動 充電装置 発電の原理(フレミングの左手の法則) ブリッジ回路による整流 ボルテージレギュレーターの電圧制御 中性点・学習機能 バッテリー 点火装置 高電圧発生の仕組み 点火装置の構成・作動 進角・遅角機能 配電装置(ディストリビューター)			
エンジン電装 G					
後期 中間	—				
後期 期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能	知識・理解		
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。	定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。		
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)
 算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		車体電装 ① ②		55 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
常 勤	林 泰夫	大阪マツダ販売株式会社		21 年	
				年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践の内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
自動車の電気装置を中心に回路構成や作動点検をおこない、システム全体を理解する。 エアコン(ヒーター・クーラー)の構成や作動、エアコンガスのメンテナンスを理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間 車体電装 ①	31	灯火装置 信号装置 警告灯 ワイパー装置 メーター装置 各回路の構成や制御を理解する			
後期 期末 車体電装 ②	24	空調装置 ヒーター クーラー エアコンディショナー 分解・組立をおこない構造・作動を理解する			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>

工業専門課程 自動車整備科 (実習、1年生)

(令和7年度実施)

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		小型二輪自動車 ① ②		62 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
常 勤	木下 泰誌	大阪マツダ販売株式会社		22 年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
<p>小型二輪自動車として、スーパーカブ(50cc)・スカイウェイブ(250cc)を教材にし、カブについてはエンジン脱着・分解、再始動させる作業をおこなう。</p> <p>スカイウェイブはエンジンの脱着をおこなうがカウルなどのボディーの脱着を主体に実施。車両の構成・構造を理解する。</p>					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間 小型二輪 ①	35	エンジン脱着 エンジン分解・組立・始動 ミッション分解 クラッチ分解			
後期 期末 小型二輪 ②	24	ボディーカウル・取外し エンジンASSy 脱着・始動 Vベルト式自動無段変速機分解			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)
 算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車検査作業		自動車検査		32 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)			実務経験年数
非常勤	柿原 悦郎	大阪スバル株式会社			20 年
					年
					年
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践の内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
自動車が「道路運送車両の保安基準」に定める保安上また、自動車諸元に照らし合わせて、適合して測定計器を使用し確認する。さらに、自動車の諸元・寸法の測定をおこない、カタログ記載内容の意味を理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間 自動車検査	32	<p>道路運送車両法 保安基準の概要</p> <p>自動車検査証の記載事項</p> <p>自動車検査証記載事項の確認 車両寸法 ホイールベース・トレッド</p> <p>サイドスリップの測定 スピードテスターの測定 制動力の測定と計算</p> <p style="text-align: right;">測定は機器操作と車両移動・操作を重視</p>			
前期 期末	—				
後期 中間	—				
後期 期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に車両諸元を計測数値と比較し測定方法の違い・適正さを認識・確認するとともに、自動車検査証記載事項が車両の同一性を示す事項であることを認識する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		定期点検		35	時間
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	西山 栄一	大阪ダイハツ販売株式会社		39	年
		自動車検査員			年
					年
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
日常点検、定期点検、車検整備の内容と重要性を説明。実車で整備する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末 定期点検	35	定期点検の実施 道路運送車両法と車両諸元 分解記録簿と点検記録簿及び点検ステッカー リフト操作と安全作業の要領 12ヶ月点検の実施 新車無料点検の実施 (実習車 整備手帳参照) 車両の保守とメンテナンス 実習車の洗車 日常点検の実施			
後期 中間	—				
後期 期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		機械工作		32	時間
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)			実務経験年数
常 勤	大島 智	関西マツダ販売株式会社			41 年
		ガス・アーク溶接資格			年
					年
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
故障診断機器の取り扱いと診断機による故障診断(故障個所の特定) 実車による故障探究					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末 機械加工	32	安全作業の確保と心得 作業工具・機器の説明 計測パスの製作 (作成図面より鋼板から切り出し) スライディングハンマーの製作 (作成図面より鋼材から加工)			
前期 期末	—				
後期 期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	実習要領書を基に作業手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断し、作成図面通りに作品が完成しているか・見栄えはどうかを評価し、図面の読み取り及び寸法どり・計測ができていないか確認する。		定期試験は作業を行うための知識を問うペーパー試験で理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で実技試験の実施、作品の完成度や進捗状況によって実技評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車検査作業		溶接作業 ① ②		53 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
常 勤	大島 智	関西マツダ販売株式会社		41 年	
		ガス・アーク溶接資格		年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					

学 習 目 標

溶接の用語から器具の取り扱い、そして作業・作品の作製までを実習としておこなう
 実習終了後に溶接協会が実施する「溶接特別教育」を受けて修了証の取得をする。
 ＊ 作業として危険度が高いため、指導員は2名体制で実習をおこなう

学習期間	時間数	学習単元と内容	
前期 中間 溶接 ① (ガス溶接)	29	ガス溶接 溶接装置・器具の取り扱い 溶接(突合せ、水平すみ肉)作業 切断作業 溶接作品の製作	下向ビード ウエビング溶接 ストリング溶接
前期 期末	—		
後期 中間	—		
後期 期末 溶接 ② (アーク溶接)	24	アーク溶接 溶接装置・器具の取り扱い 溶接(突合せ、水平すみ肉)作業 溶接作品の製作	下向ビード ウエビング溶接 ストリング溶接

評価の観点・内容・方法

観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能	知識・理解
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	実習要領書を基に作業手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断し、溶接によって鉄板を各種形式に溶接した作品で採点する。	定期試験は作業を行うための知識を問うペーパー試験で理解度を確認する。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で実技試験の実施、作品の完成度や進捗状況によって実技評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 		

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)
 算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名	
自動車整備作業		特殊電装 ① ②	
		39	時間
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)	
常 勤	新越 伸二	大阪ダイハツ販売株式会社	
		自動車検査員	
実務経験年数		38	年
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。	
実習			
学 習 目 標			
電子制御燃料噴射装置について構造と作動、制御内容を理解する。			
学習期間	時間数	学習単元と内容	
前期 中間	—		
前期 期末	—		
後期 中間	39	半導体を使った回路の作製・計測 トランジスタの増幅率測定 交互点滅回路 シーケンシャル点滅回路 モーターの無段階変速回路	
後期 期末		充電装置 発電の原理(フレミングの左手の法則) ブリッジ回路による整流 ボルテージレギュレーターの電圧制御 (直流・交流) ブラシレスオルタネーター	
大型エンジン		予熱装置 エアヒーターの構成・作動 グロープラグ制御の構成・作動	
評価の観点・内容・方法			
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能	知識・理解
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。	定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 		

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		車両制御 ① ②		32 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	八木 正	大阪スバル株式会社		30 年	
				年	
				年	
非常勤	前田 裕司	株式会社マツダプロセッシング近畿		20 年	
				年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
電動パワーステアリング、ABS装置、TCS装置など車両操作機能をアシストする装置を中心に構造・作動を理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	32	ABS・TCS装置について 単品部品の分解及び実車確認 EPS装置について 単品部品の分解及び実車確認			
		車間距離キープ(自動運転含む) エーミング調整について エアサスペンションについて 単品部品の分解			
前期 期末	—				
後期 中間	—				
後期 期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能	知識・理解		
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。	定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。		
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		水平対向エンジン分解①②		59 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	藤井 彰	大阪スバル株式会社		31 年	
		自動車検査員		年	
		職業訓練指導員		年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
エンジン分解・点検・調整・組立をおこない構造と作動を理解し、特徴を知る。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	59	シリンダー数と配列、水平対向の特徴			
前期 期末		FBエンジンの概要			
水平対向		水平対向エンジンの分解 タイミングベルト脱着のポイント			
		エンジン違いの実施(旧水平対向1実習)			
後期 中間	—				
後期 期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度		思考・判断・資料活用の技能		知識・理解
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。		整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		ジーゼルエンジン分解始動		28 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	乾 斉晃	関西マツダ販売株式会社		30 年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践の内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
およそ4000ccのジーゼルエンジンを分解・組立・測定作業をおこない再始動させる					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	28	エンジン分解事前確認 エンジン分解 圧縮圧力測定 シリンダーヘッド分解(バルブ・バルブスプリング測定) 噴射ノズル点検 グロープラグの点検 燃料エアークレブき エンジン始動確認 コモンレールシステムの概要 ユニットインジェクターシステムの概要 *(DEとはジーゼルエンジンの略称とする)			
後期 中間	—				
後期 期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		噴射ポンプ分解		32 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	乾 斉晃	関西マツダ販売株式会社		30 年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					

学 習 目 標

機械式燃料噴射ポンプの分解・組立及び調整を行うとともに噴射ノズルの点検をおこなうとともにコモンレール式燃料噴射を理解する

学習期間	時間数	学習単元と内容
前期 中間 燃料噴射ポンプ	32	ジーゼルエンジンとガソリンエンジンの違い 噴射ポンプの概要 分配型噴射ポンプの分解 タイマー機構とガバナー機構 噴射ノズルテスト
前期 期末	—	
後期 中間	—	
後期 期末	—	

評価の観点・内容・方法

観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能	知識・理解
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。	定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 		

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

工業専門課程 自動車整備科 (実習、2年生)

(令和7年度実施)

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		大型エンジン分解		38 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	乾 斉晃	関西マツダ販売株式会社		30 年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践の内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
ジーゼルエンジンの分解組立をおこない、名称・構造及び作動を理解する。 *ニッサンジーゼルFE型6925ccを使用 *いすゞ4JJ1型エンジンを使用					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間	38	FE6 内燃機関について エンジン本体の構成 潤滑・冷却装置 エンジン本体の分解・組立・調整			
後期 期末					
大型エンジン		4JJ1 内燃機関について エンジン本体の構成 潤滑・冷却装置 エンジン本体の分解・組立・調整			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		V6エンジン 分解		32 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	八木 正	大阪スバル株式会社		30 年	
				年	
				年	
非常勤	前田 裕司	株式会社マツダプロセッシング近畿		20 年	
				年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
V型 6気筒のエンジンを分解・点検・測定・調整・組立をおこない構造・作動を理解する					
V型 エンジンの構造・作動を理解する					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
	—				
	—				
前期 期末	32	V6型 エンジン 分解・組立 (トヨタV6エンジン) V6型 エンジン 単体部品 測定 ピストン クランク V6型 エンジン 分解・組立 (日産V6エンジン) V6型 エンジン 単体部品 測定 カムシャフト バルブ			
V6エンジン					
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能	知識・理解		
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。	定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。		
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		AT・CVT電子制御①②		39 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	藤井 彰	大阪スバル株式会社		31 年	
		自動車検査員		年	
		職業訓練指導員		年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
AT(電子制御式変速機構)を分解・組立・調整を行い構造・作動を理解する					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間	39	AT電子制御変速とは 油圧制御との違い(比較) 変速特性 故障とフェイルセーフ			
後期 期末		AT本体の分解・組立 動力伝達と作動説明 構成部品名称と遊星ギヤ		CVTの油圧制御 ベルト式CVTの基本構造と作動 ベルト・プーリーシステム	
AT(電制) CVTを含む		シフトコントロールバルブ分解 作動油圧回路 調圧ソレノイドバルブ 変速ソレノイドバルブ ロックアップ機構 アイドルニュートラル制御 アイドルストップ制御 安全装置と誤作動防止装置		前後進変換機構 動力伝達と作動説明 構成部品名称 CVT本体の分解・組付 ベルトとプーリーの作動 トロイダル式CVTの説明	
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法	
<p>【成績評価方法】 成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6) 算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>	

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		新技術・ハイブリッド		35 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	八木 正	大阪スバル株式会社		30 年	
				年	
				年	
非常勤	前田 裕司	株式会社マツダプロセッシング近畿		20 年	
				年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
次世代自動車へ向けての知識を修得する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間	35	ハイブリッド車両とプラグインハイブリッド車両			
後期 期末		自動車装置の電動化			
		電気自動車の長所と短所			
		燃料電池車の概要			
		自動運転の利点と各メーカーの状況			
		コンピューターと人工知能			
		*新技術(市販車の現状)は各販売ディーラによる技術セミナーを参考資料・情報として追加展開する			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法	
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>	

工業専門課程 自動車整備科 (実習、2年生)

(令和7年度実施)

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		故障探究		39 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
非常勤	森 威夫	関西マツダ販売株式会社		20 年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
故障診断機器の取り扱いと診断機による故障診断。(故障個所の特定) 実車による故障探究。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間 後期 期末 故障探究①②	39	診断機器の取り扱いと故障診断 OBD機器(エンジンセンサー作動不良) オシロスコープ(噴射信号、点火信号、エンジン回転信号) 実車による故障探究 ワイパー作動不良 ライト点灯不良 パワーウインド作動不良 リモコンミラー作動不良			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能	知識・理解		
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。	定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。		
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		ロータリーエンジン分解		35 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
常 勤	北野 昌央	大阪マツダ販売株式会社		20 年	
		自動車検査員		年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
ロータリーエンジンの分解組立をおこない、ハウジング・ローター・エキセントリックシャフトの関係性とロータリーの構造・作動を理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間	—				
前期 期末	—				
後期 中間 後期 期末	35	ロータリーエンジンの歴史と開発 レシプロエンジンとロータリーエンジンの違い ロータリーエンジンの基本構造 ・ 構成部品の概要			
ロータリー ①		ローター構造について ・ ロータリーエンジン 分解・組立			
ロータリー ②		・ 3ピースアスペックシールにつて 軸トルクの発生及びRENESISエンジンについて ロータリーエンジン 単品部品の測定			
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		シャシ 脱着 ① ②		62 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
常 勤	森 威夫	関西マツダ販売株式会社		20 年	
				年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
トラックのフロント・リヤサスペンションを脱着・分解をおこない構造・作動を理解する。 トラックのマニュアルミッションを脱着・クラッチのオーバーホールを実習し、構造・作動を理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間 シャシ脱着 ①	31	フロントサスペンション 脱着・分解 ストラットサスペンション ダブルウィッシュボーン リヤサスペンション 脱着・分解 リーフスプリング エアサスペンション デファレンシャル 脱着			
前期 期末 シャシ脱着 ②	31	フロント ブレーキ装置 分解・脱着・調整 リヤブレーキ装置 分解・脱着・調整			
後期 中間	—				
後期 期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能	知識・理解		
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。	定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。		
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法
<p>【成績評価方法】</p> <p>成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)</p> <p>算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。</p>

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車検査作業		総合検査		30 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
常 勤	新越 伸二	大阪ダイハツ販売株式会社		38 年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践の内容を指導し授業を行う。			
実習					

学 習 目 標

自動車が「道路運送車両の保安基準」に定める保安上または公害防止上、その他の環境の保全上の技術基準に適合しているか測定計器を使用し確認する。また、自動車の継続検査がどのように行われているか実施及び陸運支局を見学し理解する。自動車検査では、自動車の諸元・寸法の測定をおこない、カタログ記載内容の意味を理解する。

学習期間	時間数	学習単元と内容
前期 期末 総合検査	30	陸運支局の継続検査 支局見学(役割と業務) 継続検査の申請から継続使用検査証発行まで 道路運送車両法 新規検査と継続検査 車検整備の見積書作成(整備内容の 指定整備記録簿 測定項目の測定 (制動力・前照灯・速度計・サイドスリップ) 継続検査必要書類 自動車税 自動車賠償責任保険 重量税 指定記録簿 測定結果記入と判定 前回(総合検査①)の測定内容も含み、記録簿測定欄を すべて測定記入する(個別測定) 近接排気騒音の測定
後期 中間	—	
後期 期末	—	

評価の観点・内容・方法

観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能	知識・理解
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に車両諸元を計測数値と比較し測定方法の違い、調整方法の適正さを認識・確認するとともに、指定整備記録簿の計測欄が適切に記入できるかを評価する。	定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 		

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。

学科名		授業科目名		授業単位・総時間数	
自動車整備作業		大型二輪自動車 ① ②		61 時間	
常勤・非常勤	担当者名	経歴(前職又は現職)		実務経験年数	
常 勤	木下 泰誌	大阪マツダ販売株式会社		22 年	
				年	
				年	
授業方法		自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。			
実習					
学 習 目 標					
大型二輪自動車として、ハーレーダビッドソン車両を教材に使用、エンジンを車載上で分解作業・エンジン脱着作業及びシャシフレームの分解組立をおこない、大型二輪車特有の構造・作動を理解する。					
学習期間	時間数	学習単元と内容			
前期 中間 大型二輪 ①	32	車載エンジン分解 エンジンASSY 脱着 専用OBDによる故障診断			
前期 期末 大型二輪 ②	29	エンジン脱着 変速機分解 フロントフォーク分解・組立・調整			
後期 中間	—				
後期 期末	—				
評価の観点・内容・方法					
観点	意欲・態度	思考・判断・資料活用の技能		知識・理解	
内容	実習は作業の完了・完成を重視するだけでなく、出席率を大きく影響させた触る・作業する・参加を重視した内容となっている。	整備要領書・車両配線図・新型車解説書・実習要領書を基に分解手順・組立手順・点検手順を理解し、手順通りに進めていき作業を完成・完了へ結びつけていけるかを判断する。		定期試験は実技試験及び作業を行うための知識を問う知識ペーパー試験の2種類を行い、理解度を確認する。	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間又は期末)の実技とペーパー試験によって修得状況を把握し評価する ○ 授業内で小テストの実施、分解整備を実施し完成度や進捗状況によって作業評価する ○ 学習活動状況(授業態度・出席率を含む)を評価判定の資料とします ○ 定期試験実施後 試験内容を基に復習し理解を深める 				

成績評価方法

【成績評価方法】

成績評価得点 = ((中間又は期末試験) × 0.4) + (授業活動評価 × 0.6)
算出された成績評価得点を5段階で評価し、表す。